夢と志【学校通信】

平成 26 年 3 月 20 日
第 63 号

西中の風

～『信頼と笑顔』毎日1,500の思いやりあふれる学校生活 ～

伊丹市立西中学校長
豊田　實

卒業証書授与式　式　辞（抜粋）

梅の開花が春の訪れを感じさせる頃となりました。今日の良き日、第６５回卒業証書授与式を挙行するにあたってご来賓の皆様にご臨席いただき厚くお礼申し上げます。保護者の皆様、お子様のご卒業誠におめでとうございます。生徒たちは大いに青春を謳歌し、三年間の成長には目を見張るものがございます。私は、「信頼」という言葉を折に触れて生徒たちと職員に語っておりました。また、保護者の皆様にもお伝えしてまいりました。心が通い合う学校生活によって授業に活気が出て勉強が捗り、様々な体験活動でも満足できるものが多く生徒たちの成長を望めることとなりました。

卒業生の皆さん、「西中の風」という清々しい表現がふさわしいあなたたちです。自尊感情を身につけた素直な育ちが皆さんにはあります。みんなでつくるものを大切にしてきました。行事毎に上級生が、下級生のお手本になることを示した立派な学年集団になり、正に「学校の顔」という活躍でした。体育大会、文化祭、きょうだい学級発表会、思いっきり楽しんだ修学旅行など精一杯の意気込みを示せる卒業生の皆さんは本校の誇りです。誰もが聴いて感心した合唱コンクールの盛り上がりは来校された人々に感嘆の声をあげさせました。

さて、君たちが生き抜く世の中ではどのようなことが起こっているか、一部ではありますが考えてみましょう。２０２０年、我が国でオリンピックが開催されることになりました。その頃、君たちは２１～２２歳になっています。最高峰の競技会が開かれることで、世界の人々が日本を注目しています。これからの数年、日本の特徴やすぐれているところ、伝統文化、生活習慣などが発信される機会も増えることでしょう。世の中すべてではありませんが、経済面でも明るいニュースが流れるようになりました。豊かな社会で皆さんが活躍できるよう願っています。

今日は３月１１日、ちょうど３年前東日本大震災が発生しました。君たちは、翌月に中学校へ入学したのです。勿論、被災地の当時、小学校６年生だった人たちも君たちと同じように中学校卒業を迎えています。現在、震災犠牲者は15,884人、行方不明者2,633人。今もなお約267,400人の人々が不自由な避難生活を送っています。本校では、震災発生の２日後から生徒会が広く呼びかけて救援物資を募りました。生徒の動きに応えて多くのご家庭からも食物、日用品などの生活物資が集められたのです。震災で多くの国民が支援している、考えている、ぜひ、地道に助け合うことを継続しましょう。３年間という時の流れがあるのですが、私たち自身に震災のとらえ方に変化はないでしょうか。被災地である宮城県名取市の閖上中学校の校長先生からのお礼の電話が卒業式前日にあったのは２年前になります。伊丹市の中学生から贈られた募金を生徒会活動に生かしていますとの感謝のお知らせでした。このたびも複数校の生徒会がまとまり、支援活動を呼びかけました。また、現地中学生を励ますために本校からも吹奏楽部員２名が派遣団に加わり名取市を訪問します。このように私たち一人一人にできる息の長い支援活動が必要です。

オリンピックと大震災のお話をしていますが、オリンピックも、被災地の急ぐべき復興も、同じ国内での出来事です。オリンピック競技が成功すること、同時に被災地復興という大きな課題が解決に向かうこと、どちらも成し得ることで活力ある日本を示すことになるでしょう。

２年生と１年生は、今前席にいる君たちのお手本となった立派な卒業生の姿勢を目に焼き付けましょう。このように多くの方から成長が称えられて卒業することが西中学校のめざしていることなのです。

いまこのとき、人生を考える機会に

卒業は、共に生活した友との別れ、
思い出を強く感じるとき
卒業は、成長したことを祝福するとき、
父母に感謝するとき
卒業は、新しい出会いがはじまるとき、
これからを考え決意するとき
卒業は、大人に数歩ちかづくこと、
責任をもって歩んでいくこと
卒業は、皆さんのすばらしさが称えられるとき

卒業は、将来を実感するとき

卒業は、皆が幸せになるよう祈るとき

卒業生の皆さん、よいご縁に恵まれますように。
以上を持ちまして式辞といたします。

平成２６年３月１１日

伊丹市立西中学校
校長　豊　田　　實

本校ホームページ
「卒業式特集」をご覧ください